



春日クリニック

25周年企画

リレーエッセイ① 理事長 清田 武俊



平成4年5月1日の開業から早いもので25年が過ぎました。ちょうど今一緒に仕事をしている上野真理子先生（旧姓：清田）が小学校に入学した年です。そう考えると、改めて25年という時間の長さを感じます。

開業の準備中に地域の皆さんから、ありがたいことに歓迎会を催していただきました。その当時の写真を見直してみると、地域で活躍されていた方々の懐かしい笑顔が並んでいます。あらためて多くの人に支えられてここまで来たという感じが致します。本当にありがたいことです。

これまでたくさんの出来事があり、どれもこれも忘れられないことばかりですが、あえてベスト3をあげてみました。

① 親子4人で仕事ができていること

プライベートではどうしても仕事優先になり、父親としては不十分なこともあったはずですが、2人の子どもが自らすすんでクリニックで仕事をしたいと言ってくれたことは本当に嬉しいことでした。家族で夢を共有できていること、次の世代として頑張ってくれることは、これからも大きな力になると思います。



「ようこそ先生！」と
たかさんの笑顔に迎えられました。

② クリニック移転とサ高住「杏心の丘」が実現できたこと

2008年の移転前のクリニックは、どんな対策を講じても、すでに築30年を超え、医療を提供する環境としては限界という感じでした。駅前再開発を機に100年先まで考えた建物を建設しました。シンプルな箱型の構造で、3階まで間仕切りは全て自由に換えられるようになっています。

“杏心の丘”は、もし自宅にいることが難しくなった時、受け入れることができるよう作られたものです。開院当初から「ずっと診つづける」をモットーにしてきたクリニックの思いを形にすることができました。



当時、理事長も院長もまだ30代！
今もパワフルさは変わりません。

③ 多職種のチーム・ネットワークが着実に進化していること

駅周辺の区画整理事業のため、診療圏の約半数の住民の方が圏外へ流出しました。クリニックにとっては存亡の危機が長い間続いたのですが、心ある職員の協力で乗り切ることができました。7名からのスタートでしたが、現在は100名近くになりました。

在宅療養を続ける上で大きな問題と言われる認知症や看取りにも十分対応できる事業部門・スタッフが揃い、更にレベルアップに努めています。

これからも「先生はちっとも変わりませんよ」という言葉を励ましと受け止め、ますます創業の精神を大切にしていきたいと思えます。

⇒ 次回のリレーエッセイ 清田真由美院長

